

■ 令和5年度川崎市教科用図書選定審議会意見等一覧

	学識者分科会	校長分科会	保護者分科会
国語	<ul style="list-style-type: none"> ●学習の見通しをもたせるための掲載の仕方が分かりやすい方がよい。 ●二次元コードの横に説明がある方が分かりやすい。 ●高学年は二分冊より一分冊の方が見通しをもちやすく、今までの単元も振り返ることができるのでよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●本を紹介しているページにチェック欄を設けていることで、自分が読んだ本を確認できるのがよい。 ●学年の発達段階に応じた物語の教材を配置することが大切である。 ●目次の字は大きい方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●3社とも構成に違いはあるが、事象を浅く広く扱っていることは共通している。 ●SDGsの取り上げ方に工夫がみられる。 ●分冊についての意見が多くあがった。
書写	<ul style="list-style-type: none"> ●「振り返ろう」と「生かそう」の工夫について工夫がみられる。 ●右利きの児童と、左利きの児童にとっての手立てが丁寧な方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●振り返りの際の、教科書の言葉の投げかけ方について、低学年は呼びかけるような言葉がよい。 ●教科書の学習のポイントの提示の仕方が丁寧な方がよい。 ●水書用紙を活用できる方がよい。また毛筆と硬筆のつながりが分かりやすい方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●手本文字の掲載ページが左か右かについて各社で違いがある。 ●書写の学びを日常につなげていくために、横書きや縦書きの活動例が示されているのがよい。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ●「社会科の学習の進め方」について、見方・考え方を含めてはじめに捉えられるようにすることが大切なのではないか。 ●学習のサイクルが分かりやすいことも大切である。 ●川崎市の事例が取り上げられているものがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習する事例地として、年間通じて同じ事例地を取り上げているもの、複数の事例地を取り上げているものがある。 ●川崎市や神奈川県など自分たちに身近な事例地を取り上げると興味をもちやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●3社とも構成に違いはあるが、事象を浅く広く扱っていることは共通している。 ●SDGsの取り上げ方に工夫がみられる。 ●分冊についての意見が多くあがった。
地図	<ul style="list-style-type: none"> ●3年生が使用する視点から、地図とイラストの大きさやバランスが大切である。 ●1ページの情報量に違いが見られる。 ●地図の掲載順序や見やすさに工夫があるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●土地利用の色分けに違いが見られる。 ●川崎市のようなすが分かる地図があると興味をもちやすい。 ●親しみやすさや、丁寧さも大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地図や統計の情報量、縮尺や索引の示し方、キャラクターの役割、日本の自然災害の扱いに違いが見られる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ●課題から「問い」を見出すことができるよう、日常との関連を具体的な例を示している方が子どもが主体的に学習に向かえてよい。 ●学び方において「問い」の連続性を意識している構成がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●単元末や学年末に設定している練習問題が、子どもの学習状況に応じて選択できるのは川崎市の実態に合っている。 ●既習である知識・技能を紙面や二次元コードから動画で振り返ることができるのは知識・技能の定着に向けた手立ての一つである。 	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項と日常生活のつながりを意識している構成がよい。 ●単元内に登場するキャラクターの吹き出しの内容に多くのことが書かれていると子どもの思考を狭めてしまうのではないか。 ●分冊だと軽くて持ち運びやすいが、これまでの学習を振り返る際に必要な場合もある。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ●観察や実験の結果をまとめるのではなく、結果を基に児童が考え、考えを練り合う場面の設定や工夫が大切である。 ●結論をまとめて終わりではなく、生活に生かしたり社会とつながったりするための設定が大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●第3学年では生活科から理科につながる工夫や、理科を始めるための工夫があるとよい。 ●安全に安心して観察、実験を行うために、わかりやすく目立つマークの工夫や、指示や図などの示し方の工夫が大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書の大きさや重さは、持ち運びやすいものがよい。 ●二次元コードから直接コンテンツへつながるものがよい。 ●授業以外の場面でも、楽しく見られる工夫があるとよい。 ●実験の場面で、自ら主体的に取り組めるように、説明等は精選されているほうがよい。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書の学習の流れに沿って、活動の見通しがもてるような構成になっていると、児童にとっても授業者にとってもよい。 ●これからの時代を考えると、情報機器の使い方や情報モラルについての資料が掲載されていることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●児童が学び方を身に付け、中学年以降の学びにもつながっていくよう、学習過程がインデックスで示されるなど、学習の見通しがもてる構成になっているとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●各社とも多様性に配慮し、車イスの児童や多国籍の児童のイラストや写真が掲載されている。 ●各社とも低学年の発達段階に配慮し、図鑑的な資料が掲載されている。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ●学習を通して、「こう歌いたい」「この曲にはこんなよさがある」など自分の考えをもっていくことができることが大切であり、そのためには、学習のまとまりを意識している題材の構成や自分の考えをもつことができる教材が必要である。 ●全学年で掲載している国歌「君が代」についても各社に違いがあり、他国の国歌について考えることができるコーナーは川崎市の実態に合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習の流れや思考の流れ、学習過程が明記されていることが児童にわかりやすい。 ●題材の構成については、題材のまとまりを見通していることが大切である。 ●二次元コードは、個別最適な学びの点で活用できる手立ての一つである。 	<ul style="list-style-type: none"> ●2社とも冒頭にある学習マップには各社に違いがある。 ●音楽科の学習で子どもたちが楽しさを感じることができる教材について、教材と教材の関連がわかりやすいことが大切である。 ●諸外国の歌や他教科等と関連を図れる教材、学習したことが社会とつながることができるような教材が掲載されているものがよい。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ●写真の表情が豊かなことで、表現の手立てとなる。 ●作家の写真が冒頭に掲載されていて、社会とのつながりを意識することにつながる。 ●ねらいや振り返りができるように表記されている。 ●他教科とのつながりの表記は、関連が明確である必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●道具の安全な使い方については、正しい使い方と誤っている使い方がわかる示し方が大切である。 ●1つの題材でも多様な作品が掲載されていることで、指導者のねらいに合わせて活用できることが大切である。 ●ねらいの示し方については、指導者と児童がわかることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●道具の使い方については、右利きだけでなく、左利きの表記もあることが大切である。 ●全身を使って表現する題材が掲載されていることで、豊かな活動につながる。 ●つくるだけでなく、生活や将来へのつながりに関する掲載も大切である。

	学識者分科会	校長分科会	保護者分科会
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ●見方・考え方について、イラスト入りで、題材ごとに掲載しており、教える側の視点が定まりやすい。 ●自分で課題を発見し、学習したことを実生活につなげられるような構成になっているとよい。 ●題材ごとのまとめだけでなく、学習したことや他教科等との関連について、マークで表記するなど、各社工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●題材の配列の仕方に各社の特徴がでている。細分化されすぎていると、学習内容が増えているように感じ、教師の負担が増えるのではないか。 ●キャリア教育に関する資料の提示が各社工夫されている。 ●切り方や縫い方など写真で示されているが、色彩や字体（フォント）など視覚的に分かりやすい工夫があるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭の仕事分担やイラストが多様性を考慮したものになっている。 ●各ページの右上に二次元コードが示されていて、各社とも右利き、左利き用の動画コンテンツがあって、児童によりそった工夫がされている。 ●安全に関する記載があり、実習や製作での配慮事項が確認できる。
保健	<ul style="list-style-type: none"> ●写真の色使いについて、強い色は子どもが圧迫感を感じる。 ●日常生活をきっかけに課題をつかむなど、自分の生活と関連付けるような事例をいかに出しているかが大切である。 ●学んだことを書き込めるスペースに、各社差がある。 ●道徳をはじめ他教科との関連の記載は大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●写真・イラスト・文章のバランスや、重要語句（太字部分）の表記に差がある。また資料や写真の色合いにも差がある。 ●書き込めるスペースに差がある。スペースが十分にあると、ワークシートを用意しなくてもよいので教員は助かる。 ●体の発育・発達の表記の仕方に差がある。 ●選べる制服（宮内中の写真が掲載されている）などジェンダーレスの取組についてはかわさき教育プランとの関連がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●体の発育・発達の表記については、子どもの視点から男女同じものを着用した写真・イラストの方がよい。 ●相談窓口の記載について、二次元コードからもつながるものがよい。 ●導入部分で課題に気づき、日常生活の改善につなげられる流れが良い。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ●単語と単語の間にスペースを開けるなど、英文を書く上でのルールをきちんと示している ●語彙・表現集については、教科書と別冊になっていると、児童はそれを見ながら表現を書き写すことができる。 ●今まで学んだ語彙や表現を活用して、まとめとなる言語活動に結びつけられる工夫があるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●CAN-DOリストなどで、子どもたちが見通しを持ったり、振り返ったりすることができるツールが工夫されているとよい。 ●自分の考えを整理してアウトプットするために、思考ツールなど、児童が知っていることを使って整理できるような工夫があるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●余白や色の使い方に工夫があると、教科書に書き込みしやすい。 ●二次元コードに動画や音声があることで、指導の充実につながる。 ●道案内など、実生活に関連した題材設定がよい。 ●年間の学びを振り返ることができる工夫があるとよい。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ●ユニット学習や道徳科の学び方を示す目次や教材に書かれている言葉について、価値観の表現の仕方に各社の特徴がでている。（直接的か間接的か） ●かわさき教育プランに関連して子どもの権利条約を掲載しているので権利学習との関連が図れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ノートについて、苦手な教員にはよいのでは。逆に決まった形だと固定されてしまうのではないか。 ●教材の配置の仕方に各社の特徴がでている。 ●発問例について、使いづらい教員とやりやすい教員がいるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●可視化したマークや分かりやすく言い換えたことばなどは子供にあっている。 ●川崎市は、多文化共生を大事にしているので、道徳科を学んだ後に他の学習や交流などに生かせる工夫ができる教科書がよい。
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ●話し合う観点などが示されている、カラー写真が多く使われている、資料が多く掲載されているなど生徒が主体的に学びやすい丁寧なつくりになっている。 ●2次元コードの記載も多くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●法規や財務など卒業後を見据えての内容が掲載されている。 ●今年度検定の英語の教科書には2次元コードがあるが、他の教科にはあま載っていない。 ●教科書によって内容がずいぶん異なるので、各校で学習に適した採択が行われるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●2次元コードの扱い方にそれぞれ違いがある。 ●難しい語彙にはルビが振ってある工夫がよい。 ●AIなどについて分かりやすく扱っており、身近な生活に関連している内容が分かりやすい。 ●国語では現代作家を取り上げている工夫がよい。
特別支援学校等	<ul style="list-style-type: none"> ●わかちがきに近く文節を短く区切る工夫がされている。 ●実際の生活関連を意識した内容を多く掲載し、丁寧なつくりになっている。 ●9条本では音や手触りの工夫があり、個々の子どもたちに応じたものを選ぶことが大切だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの興味が湧くように動いたり、楽しい作りがされている。 ●子どもたちの発達の差によって教科書の種類が豊富にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●字が大きくて読みやすい。 ●教科書の大きさが揃っており、持ち運びしやすくなっている。 ●一人ひとりの子どもの障害や状況に応じて選択肢があるのがよい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●高等学校については、学校ごとの特色、スクールポリシーを持ちながらどういう人材を育成していくかということそれぞれの高校では日々教育活動にあっているとと思う。それぞれの高校の教科書がどれがいいのかというのは、現場の教員の意見が大切になってくると思う。 ●特別支援学校等については通う児童生徒が増えている。障害の程度や学びの深度は千差万別中で、9条本を活用した教育活動を展開していくためには、現場の教員の選択が非常に重要だ。 		